

(続紙1)

京都大学	博士（地域研究）	氏名	桐原 翠
論文題目	現代イスラーム世界におけるハラール産業の発展 —マレーシアの国際的イニシアティブとハラール認証制度の越境化—		
(論文内容の要旨)			
<p>本論文は、近年、イスラーム世界の内外で急成長を続けているハラール産業と呼ばれるムスリム向け製造・サービス業に注目し、それを支えるイスラーム世界の現代的変容を追いながら、ハラール産業の世界的拠点であるマレーシアを事例として取り上げ、同国における沿革と動態、および国際的役割を明らかにすることをめざした研究である。</p> <p>本論文は、4章から成り、序論と結論が付されている。</p> <p>第1章「現代世界におけるイスラーム法の規範と展開—ムスリムの生存基盤としての食—」では、現代におけるハラール産業の勃興に大きく関わるイスラーム復興運動に注目し、ハラール産業が登場した歴史的背景が考察されている。その上で、ハラール産業の発展に大きく寄与したムスリム移民／ディアスポラの役割や、ハラールに関するイスラーム法の現代的革新に貢献したムスリム知識人であるムハンマド・ハーシム・カマーリーの法解釈についての分析が行われている。</p> <p>第2章「多民族国家マレーシアの成立とイスラームイニシアティブの獲得」では、マレーシアの現代史を描きながら、多民族国家としての経験が同国のハラール産業発展にどのような影響を与えてきたのかについて考察されている。また、同国の歴代政権が打ち出してきたイスラーム的発展戦略とハラール産業との関係性についても分析が行われ、発展戦略とハラール産業が、現代イスラーム世界における同国のイニシアティブの獲得のための車の両輪になっているだけでなく、全世界のムスリムの生存基盤強化への貢献も視野に入っていることが明らかにされている。</p> <p>第3章「マレーシアにおけるハラール規定の明文化とその制度化」では、マレーシアのハラール産業の発展について、同国が世界の先頭を切って整備を進めてきたハラール認証制度の形成過程の分析と、ムスリムの生活空間におけるハラール規範の浸透の2つの側面から分析が行われている。そこでは、現在のマレーシアにおけるハラール産業の発展は、単にハラール認証制度の整備だけでは説明することができず、認証制度を超えたハラール規範の日常生活への浸透が大きく貢献したことが明らかにされている。</p> <p>第4章「国際的主導権を目指すマレーシアの政策と戦略」では、ハラール産業の国際ハブをめざすマレーシアの国家戦略の実効性と意義を理解するために、アブドゥッラ・バダウィ政権期のハラール産業戦略に注目し、その国際的な影響をマレーシア国外のハラール産業の動向の調査にもとづいて考察している。トルコとドバイのハラール</p>			

ル見本市の現地調査からは、ハラール産業の国際的競合の中でもマレーシアのハラール産業の存在感は無視できないレベルに達しており、マレーシアを「グローバル・ハラール・ムーブメント」の先導役として位置づけることができると結論づけている。

結論では、論文全体をまとめ、現在のハラール産業の発展は、伝統的なイスラーム世界から現代イスラーム世界を架橋し、かつイスラーム世界とグローバル社会の共存を具現化した存在であると述べ、21世紀型のイスラーム文明システムの先進事例としての意義もあると総括されている。